



(別紙) 平成29年度第1回加東市水道事業及び下水道事業運営審議会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 挨拶 市長</p> <p>4 委員紹介</p> <p>5 会長の選出・職務代理の指名</p> <p>6 諮問</p> <p>7 報告・協議事項</p> <p>報告・協議事項の(1)から(4)までについて、事務局から説明</p> <p><b>【質疑応答等】</b></p> <p>(1) 審議会の運営について (質疑なし)</p> <p>(2) 加東市水道事業及び下水道事業の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収益的収支や資本的収支では、赤字となっても、その経営実態については、損益計算書及び貸借対照表を見なければつかめない。</li> <li>・損益計算書及び貸借対照表をお示ししないと理解しづらいのは確かである。的確な回答とならないかもしれないが、公営企業会計では資料 No4 の 9 ページなどの収益的収支で営業活動の成績を示し、資本的収支では企業債や一般会計からの繰入金などを財源にして運営を行っているところである。公営企業会計は独立採算が原則であるため、制度上認められている基準内繰入金でない基準外繰入金については、事業運営の改善を図り減少させていくべきと考えている。さらにいうと、下水道事業の場合、利用者からの使用料で費用を賄えるのであればよいが、一般会計から 12 億円を負担してもらって経営が成り立っているという状況である。</li> <li>・一般会計から負担されている項目はどれか教えてほしい。</li> <li>・資料 No4 の 9 ページの他会計補助金及び他会計負担金、資料 No4 の 11 ページの他会計負担金、他会計補助金及び他会計出資金が一般会計からの負担である。</li> <li>・要するに、下水道事業は自立できていないということは認識できた。</li> </ul>
<p>会長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>(3) 加東市水道ビジョン・下水道ビジョン及び水道事業経営戦略の概要について</p> <p>(4) 加東市水道ビジョン・下水道ビジョン及び水道事業経営戦略の策定方針について (一括協議)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの取組みをビジョンや経営戦略にまとめていこうという主旨だったかと思うが、意見のある方はご発言いただきたい。</li> <li>・10年間の計画を策定することだが、説明では50年先を見据えるとの話もある。両者の関係をどのように考えるのか。</li> <li>・50年先の将来像を見通し、あるべき将来像に向かって、今後10年間で取り組むべき戦略を具体化するものである。</li> <li>・汚水管が布設された時期の話もあったが、今後更新がピークとなる時期はいつなのか。</li> <li>・資料 No4 の 6 ページで管渠の資産をお示ししており、2050年の少し前に更新のピークが到来する。</li> <li>・債権（企業債）の償還期限はどのようになっているか。</li> <li>・企業債の償還は、ピーク時には16～17億円の支出をしていたが、現在はピークを過ぎ減少していくところである。この先企業債を新たに借入しなければ30年以内に償還が終わるが、今後の更新需要の増加を踏まえると、新たな企業債の借入に伴い償還は30年後も続くと思込んでいる。</li> <li>・下水道事業の経営戦略を1年早く策定した理由は何か。</li> <li>・下水道事業の経営状況が非常に厳しく、危機感から1年前倒して策定した。</li> </ul>

委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沢水を水道として使用している家庭はないのか。</li> <li>・ 下水道使用料の算定に関係するため、井戸水利用者は把握しているが、沢水利用者の実態については不明である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加東市の端の方に住んでおり、過去に沢水を使用していたが、20年以上前に水道が布設された際、撤去した経緯がある。本市では、沢水使用者がほとんどいないのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状で下水道事業は経営が悪いとのことであるが、収支だけをみるとそのようには感じない。現状を悪いと考えて計画するか、そうでもないと考えて計画するかで取り組みの方向性が変わってくるのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下水道事業には、汚水事業と雨水事業があり、汚水事業は利用者からの使用料で、雨水事業は税金で賄うことが原則である。このうち、汚水事業では一般会計からの負担があって収支の均衡がとれているため、実態としては自立経営できていないということが問題と考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金の確保状況からみて経営を評価するのか、保有資産の状態からみて経営を評価するのか、どちらで考えるかによっても答えが変わってくる。本市の実態はどうか。今の資料では何が正しいか判断ができない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下水道事業では12の処理場があり、設備も耐用年数の短いものが多いことから今後全てを更新するとなると多額の投資が必要となる。そこで、流域下水道・公共下水道への統廃合により効率性高めたいと考えている。詳しい内容は、事前に配布した下水道事業経営戦略の40ページをご覧ください。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日は現地視察も控えているので、その他の意見については、意見書において、8月10日までをお願いします。</li> </ul>
	<p><b>8 その他</b>  <b>次回の開催時期について</b>  事務局より次回開催予定を11月10日と説明</p>
	<p><b>9 閉会</b>  挨拶 神田会長職務代理者</p>
	<p><b>10 現地視察</b>  滝野浄水場、広沢浄水場及びせせらぎ東条（下水処理場）の順に現地視察</p>